

2020年（令和二年）

9月18日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所  
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)  
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階  
ホームページ <https://oil-info.iej.or.jp>

## ■ 概況

9/3~9/9のNYMEX・WTI先物市場は、36.76~41.37ドルの範囲で推移した。

9月10日は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で原油在庫が200万バレル増と予想(130万バレル減)外の増加、米ドライブシーズンの終盤を迎え、製油所のメンテナンス入りなど、石油需要の減速懸念から、反落した。10月限終値は前日比0.75ドル安の37.30ドル。

週末11日は、模様眺めのムードの中、売り買いが交錯し、わずかに反発した。なお、ペーカーヒューズ社発表の米国稼働石油掘削機は、前週末比1基減の180基で2週ぶりの減少だった。10月限の終値は前日比0.03ドル高の37.33ドル。

週明け14日は、OPEC9月月報が2020年・21年の世界石油需要見通しを従来より下方修正するなど、先行きの石油需要の減速懸念から、小幅に反落した。ただ、米メキシコ湾に新たなハリケーンが接近中で、供給障害の発生懸念から、価格低下は限定的だった。10月限終値は前週末比0.07ドル安の37.26ドル。

15日は、ハリケーン「サリー」による供給懸念を背景に、反発した。ただ、この日発表の国際エネルギー機関(IEA)月報が2020年の世界石油需要見通しを下方修正、石油需要の先細り懸念も根強く、上値は限られた。10月限の終値は前日比1.02ドル高の38.28ドル。

16日は、この日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報は原油在庫が前週比440万バレル減少と報告、また、経済開発協力機構(OECD)が2020年の成長見通しを8月時点から上方修正、さらに、ハリケーン「サリー」による供給障害の懸念等から、大幅続伸した。10月限の終値は前日比

1.88ドル高の40.16ドル。

アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場(11月渡し)は9月3日~9日の間38.90~43.60ドルの範囲で推移した。9月10日40.00ドル、11日39.10ドル、14日39.10ドル、15日38.90ドル、16日40.50ドルと推移した。

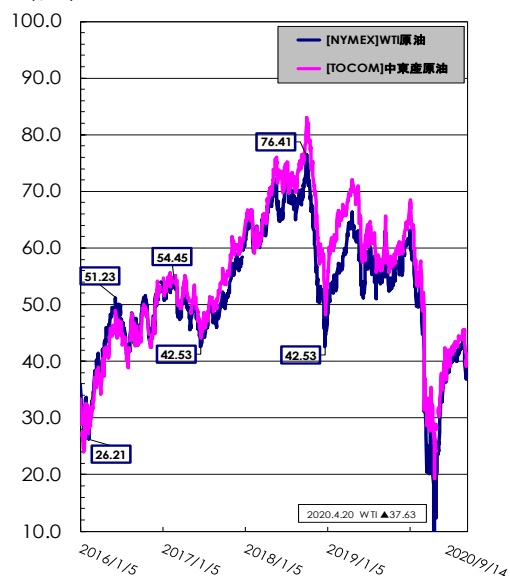
為替は9月3日~9日の間105.99~106.36円の範囲で推移した。9月10日106.22円、11日106.16円、14日106.18円、15日105.74円、16日105.38円で推移した。

財務省が9月16日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、8月下旬の原油輸入平均CIF価格は、30,072円/klで、前旬比1,478円高、ドル建て44.97ドルで前旬比1.87ドル高、為替レートは1ドル/106.32円。また、同日発表の貿易統計(速報・旬間)によると、8月の原油輸入平均CIF価格は、28,979円/klで、前月比6,924円高、ドル建て43.42ドルで前旬比10.72ドル高、為替レートは1ドル/106.11円

そのような中で、9月14日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.3円の値上がり、軽油も同0.3円の値上がり、灯油も同1円(18%ベース)の値上がりだった。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油も2週連続の値上がりだった。この週(9月第2週)の原油コストは値下がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに前週比3.0円の引き下げとなった。

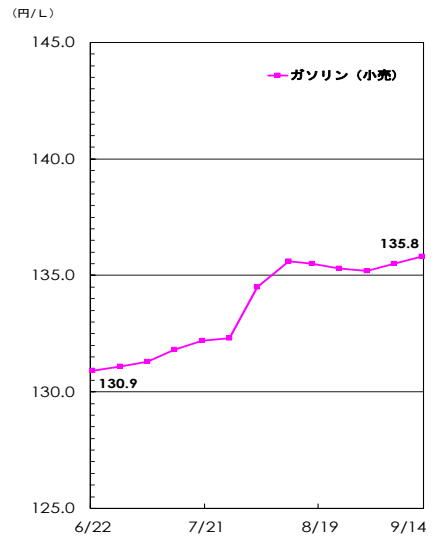
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	9/6 ~ 9/12	2,581 ▲ 116	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	65.9 ▲ 2.9	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	9/12	13,228 ▼ -624	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	9/14	39.43 ▼ -2.15	▼ -26.2
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	9/14	37.26 ▲ 0.50	▼ -25.6
	原油CIF単価 (\$/bbl)	8月下旬	44.97 ▲ 1.87	▼ -22.42
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	30,072 ▲ 1,478	▼ -15,356
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	106.32 ▼ -0.84	▲ 0.85
	外国為替TTSレート (¥/\$)	9/14	107.18 ▲ 0.18	▲ 2.02

(\$/b)



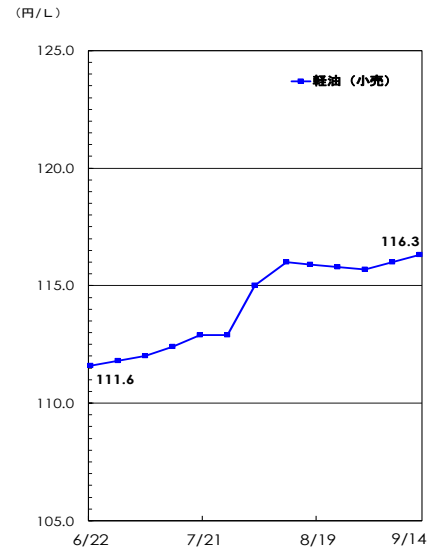
		(単位：千kl、円/%)			
ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/6 ~ 9/12	854	▼ -35	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	794	▼ -199	▼ -
	輸出	"	34	▲ 34	▲ -
	在庫	9/12	1,758	▲ 26	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/8 ~ 9/14	43.7	▼ -2.3	▼ -12.9
	先物 [期近物/終値]	9/8 ~ 9/14	38.3	▼ -3.0	▼ -15.6
	(TOCOM/中部)	9/14	41.0	▼ -1.0	▼ -13.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/14	135.8	▲ 0.3	▼ -7.1

※業転、先物価格は税抜き価格

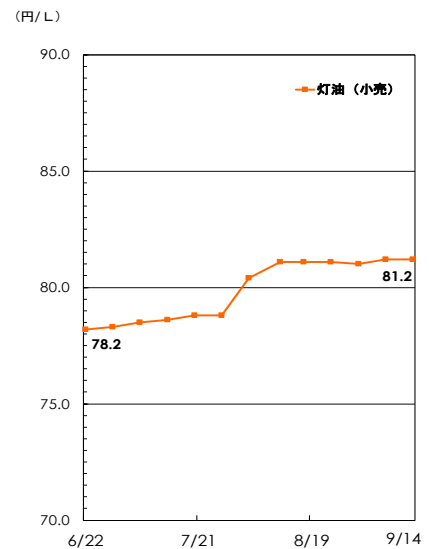


		(単位：千kl、円/%)			
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/6 ~ 9/12	584	▼ -9	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	605	▼ -24	▼ -
	輸出	"	29	▼ -116	▼ -
	在庫	9/12	1,590	▼ -49	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/8 ~ 9/14	47.2	▼ -1.2	▼ -11.2
	先物 [期近物/終値]	9/8 ~ 9/14	46.3	▼ -2.0	▼ -12.9
	(TOCOM/中部)	9/14	-	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/14	116.3	▲ 0.3	▼ -8.0

※業転、先物価格は税抜き価格



		(単位：千kl、円/%)			
灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/6 ~ 9/12	174	▲ 8	▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.	n.a.
	出荷	"	103	▲ 14	▲ -
	輸出	"	25	▲ 1	▼ -
	在庫	9/12	2,650	▲ 46	▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/8 ~ 9/14	46.6	▼ -1.5	▼ -11.8
	先物 [期近物/終値]	9/8 ~ 9/14	40.4	▼ -2.4	▼ -17.1
	(TOCOM/中部)	9/14	42.0	▼ -1.5	▼ -16.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/14	81.2	▲ 0.0	▼ -8.6



## ■ 関連情報

## 1 海外/原油

9月16日のNYMEXのWTI先物原油は、米国原油在庫の減少、ハリケーン「サリー」による供給混乱への懸念等から大幅続伸、節目の40ドル台を回復した。この日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報は、11日時点の原油在庫が前週比440万バレル減少と市場予想(130万バレル増)に反して取り崩しを報告、また、経済開発協力機構(OECD)が2020年の成長見通しを8月時点の▲6.0%から▲4.5%に上方修正されたことが、上昇要因となった。さらに、ハリケーン「サリー」は、早朝、米南部アラバマ州に上陸、周辺では洪水・高潮が発生しており、供給障害が懸念さ

れている。10月限の終値は前日比1.88ドル高の40.16ドル、11月限の終値は同1.86ドル高の40.41ドル。

EIAによると、9月14日時点のガソリンの小売価格は、前週比2.8セント値下がりの1ガロン2.183ドル(61.7円/ℓ)、ディーゼルは同1.3セント値下がりの2.422ドル(68.5円/ℓ)となった。ガソリンは2週連続の値下がり、ディーゼルは2週連続の値下がりだった。

## 2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2020年9月6日～9月12日に休止したトッパー能力は81.9万バレル/日で、前週に対して9.3万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は258.1万klと、前週に比べ11.6万kl増加。前年に対しては66.3万klの減少。トッパー稼働率は65.9%と前週に対して2.9ポイントの増加、前年に対しては16.9ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェット、灯油、A重油で増産、その他の油種で減産となった。ガソリン/4.0%減、ジェット/3.4%増、灯油/5.0%増、軽油/1.6%減、A重油/9.3%増、C重油/21.3%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比0.0万kl減)。軽油の輸出は2.9万kl(前週比11.6万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は前週比で灯油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比では灯油が増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は79.4万kl(対前週20.1%減)と3週振りで減少した。ジェット5.1万kl(対前週38.4%減)、灯油10.3万kl(対前週15.7%増)、軽油60.5万kl(対前週3.8%減)、A重油13.8万kl(対前週8.3%減)、C重油11.3万kl(対前週32.8%減)。

(単位: 千KL)

	今週 (9/6 ~ 9/12)	前週 (8/30 ~ 9/5)	前週比
ガソリン	794	993	▼ -199 (-20%)
ジェット燃料	51	82	▼ -31 (-38%)
灯油	103	89	▲ 14 (16%)
軽油	605	629	▼ -24 (-4%)
A重油	138	150	▼ -12 (-8%)
C重油	113	168	▼ -55 (-33%)
合 計	1,804	2,111	▼ -307 (-15%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

## 2 国内/製品需給 (2) 在庫

9月12日時点の在庫は、軽油、C重油で取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては、C重油が減少し、その他の油種で増加となった。

ガソリンは175.8万kl、前週差2.6万kl増。前年に対しては16.2万kl多い。

灯油は265.0万kl、前週差4.6万kl増。前年に対しては13.3万kl多い。

軽油は159.0万kl、前週差4.9万kl減。前年に対しては0.4万kl多い。

A重油は72.3万kl、前週差1.1万kl増。前年に対しては1.1万kl多い。

C重油は189.3万kl、前週差1.3万kl減。前年に対しては6.5万kl少ない。

(単位: 千KL)

	今週 (9/12)	前週 (9/5)	前週比
ガソリン	1,758	1,732	▲ 26 (2%)
ジェット燃料	814	776	▲ 38 (5%)
灯油	2,650	2,604	▲ 46 (2%)
軽油	1,590	1,639	▼ -49 (-3%)
A重油	723	712	▲ 11 (2%)
C重油	1,893	1,906	▼ -13 (-1%)
合 計	9,428	9,369	▲ 59 (0.6%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

9月8日～14日の原油価格は前週比で大きく値下がりし、為替レートはほぼ横ばいで、円建ての原油コストは大きな値下がりであったと見られる。

これを受けて、次週の大手元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社、前週比3.0円の引き下げとなった。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

9月8日～14日の製品スポット市況は、9月1日～7日平均と比べ、全取引・全油種で値下がりとなった。

直近(9/8～9/14)の陸上スポット価格平均値(千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格)は、前週(9/1～9/7)比で、ガソリンは2.3円の値下がり、灯油は1.5円の値下がり、軽油は1.2円の値下がりだった。直近(9/8～9/14)において、ガソリンは96～99円台で大きく値下がり、灯油も45～47円で大きく値下がり、軽油は46～48円台で値下がりして推移した。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、直近(9/8～9/14)に、前週比で、ガソリンは1.3円の値下がり、灯油は1.2円の値下がり、軽油も1.2円の値下がりだった。海上スポット価格は、同期間(9/8～9/14)に、ガソリンは98～100円台で値下がり、灯油は41～42円台で大きく値下がり後やや値上がり、軽油は48～50円台で大きく値下がり後ほぼ横ばいで推移した。

先物価格の平均は、前週比で、ガソリンは3.0円の値下がり、灯油は2.4円の値下がり、軽油は2.0円の値下がりだった。先物価格は、同期間(9/8～9/14)に、ガソリン91～93円台で値下がり後出入り、灯油40円台で値下がり後値上がり、軽油45～47円台で大きく値下がり後値上がりして推移した。

(RIM)		(単位: 円/ℓ)		
ス ポ ッ ト 価 格	(陸上ローリー 4地区平均)	今週 (9/8～9/14)	前週 (9/1～9/7)	前週比
	レギュラー	43.7	46.0	▼ -2.3
	灯油	46.6	48.1	▼ -1.5
	軽油	47.2	48.4	▼ -1.2

(TOCOM)		(単位: 円/ℓ)		
先 物 価 格	(期近物/終値] [平均]	今週 (9/8～9/14)	前週 (9/1～9/7)	前週比
	レギュラー	38.3	41.3	▼ -3.0
	灯油	40.4	42.8	▼ -2.4
	軽油	46.3	48.3	▼ -2.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (9/8～9/14実績値)		(単位: 円/ℓ)		
油種	現物	先物	平均	
ガソリン	▼ -2.3	▼ -3.0	▼ -2.7	
灯油	▼ -1.5	▼ -2.4	▼ -2.0	
軽油	▼ -1.2	▼ -2.0	▼ -1.6	
A重油	▼ -1.0			

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

9月14日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週(9月7日)比0.3円高の135.8円、軽油も同0.3円高の116.3円、灯油は18ℓベースで同1円高の1,462円(1ℓベースでは82.1円で横ばい)。ガソリンは2週連続の値上がり、軽油も2週連続の値上がり、灯油も2週連続の値上がりだった。

ガソリンについて、都道府県別には、値上がりは26都道府県、横ばいは7県、値下がり14県となった。全国最安値は徳島県の127.4円(前週比0.2円安)、その次に安いのが宮城県の129.8円(同0.1円高)、最高値は長崎県の145.3円(同0.4円安)。最も値上がりしたのは、同1.9円高の北海道

(134.1円)、横ばいは長野県等7県、最も値下がりしたのは、同1.1円安の滋賀県(130.3円)だった。

今週(9月8日～14日)は、原油価格は大きく値下がりし、為替レートは横ばいで、円建ての原油コストは大きく値下がりしたと見られる。次週(9月17日～23日)適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社3.0円の引き下げとなった。次回調査時(9月23日)のガソリンの小売価格は、値上がりが見込まれる。

(資工庁公表) [週動向]		(単位: 円/ℓ)				
小 売 価 格		今週 (9/14)	前週 (9/7)	前週比	直近高値	
	レギュラー	135.8	135.5	▲ 0.3	08/8/4	185.1
	灯油	81.2	81.2	→ 0.0	08/8/11	132.1
	軽油	116.3	116.0	▲ 0.3	08/8/4	167.4

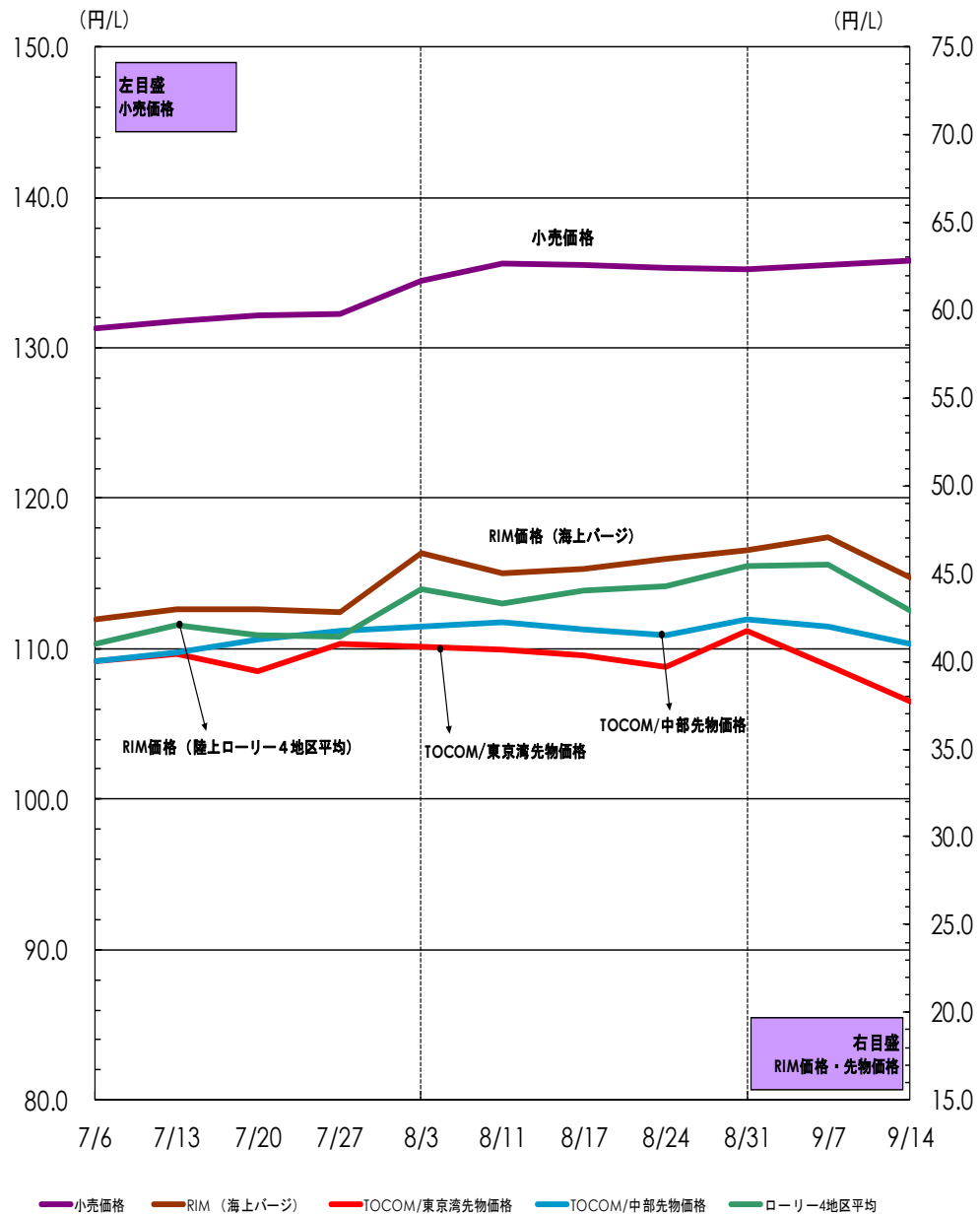
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2020/7/6 ~ 2020/9/14)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2020第13号)の公表は、10/2(金) 14:00 です。

「セルフSS出店状況」(令和2年3月末現在)は、8月26日(水) 14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。